

会議名	令和元年度（2019年度） 第1回 宝塚市子ども審議会		
日時	令和元年（2019年）5月17日（金） 午後5時00分～6時00分	場所	宝塚市役所 特別会議室
出席者	委員	伊藤篤、濱田格子、松島京、大西登司恵、鴨田朋子、神原麻乃、椎山美恵子、 波多野靖明、平尾聰、藤井優恵、八木佐和子、山田慎治、和田昇、加納邦子、 田中由利子、富永泰、松尾陽子（敬称略）	
	事務局	子ども未来部長、子ども家庭室長、子ども育成室長、子ども政策課長、同係長、同係員	
	拡大事務局	子育て支援課長、同係長（家庭児童相談担当）、子ども家庭支援センター所長、子ども発達支援センター所長、保育企画課長、同副課長、保育事業課長、青少年課長、人権男女共同参画課長、保健施策推進担当課長、学校教育課長、幼児教育センターワーク次長、教育支援課副課長	計13名（欠席1名）
会議の公開・非公開		公開	傍聴者
内 容（概要）			
1 開会			
2 委嘱辞令交付			
3 副市長挨拶			
4 出席委員及び事務局職員の自己紹介			
会議の成立及び公開について			
委員21名中17名出席 宝塚市子ども審議会条例第6条第2項の規定により、委員の過半数以上の出席があったため会議は成立している。			
また、本日の会議は公開とする。傍聴者はなし。			
5 正副会長選出			
事務局： 会長・副会長については、宝塚市子ども審議会条例第5条により委員の互選で定めることとなっているが、推薦等いただきたい。			
委員： 事務局案はあるか。			
事務局： 事務局としては、宝塚市次世代育成支援行動計画「たからっ子『育み』プラン」の策定や子ども施策の推進に長く関わっておられることから、昨年度と同様に会長には伊藤委員を、副会長には濱田委員を推薦するが、いかがか。			
委員： （異議なし）			
6 議題			
(1) たからっ子「育み」プラン後期計画策定について			
①次世代育成支援行動計画および子ども・子育て支援事業計画について			
○事務局から、資料④に基づき宝塚市子ども審議会と、宝塚市次世代育成支援行動計画「たからっ子『育み』プラン（宝塚市子ども・子育て支援事業計画）」について、資料⑤に基づき計画策定スケジュールについて説明。			
会長： ご意見・ご質問等はあるか。			
委員： 次世代育成支援行動計画と子ども・子育て支援事業計画を比較した意図を教えてほしい。次世代育成支援行動計画は、子ども・子育て支援事業計画の目的と合致しており、同じ方向性で計画を策定するということか。			

事務局： 次世代育成支援行動計画は、次世代の子どもたちをどのように育していくかという計画で、理念的なものである。子ども・子育て支援事業計画は、平成27年度から子ども・子育て支援法が始まるにあたって策定された計画で、教育や保育の量といった数量計画的なものとお考えいただきたい。

この二つの計画はまったく別物ではあるが、宝塚市の子育て支援を支えるバイブル的なものである。この二つの計画をもって宝塚市の子育てを考えていこうということである。それぞれの計画を一体的に進めていきたい。今議論すべきことはどちらの計画についてなのか、考えながら議論いただきたい。

委員： 10月から幼児教育・保育の無償化が始まり、今年後半から来年にかけてニーズが大きく変わると思われる。保護者の方からもどうなるのかと問い合わせがある。正確な情報がまったく伝わっていない中で行われたニーズ調査の結果だけで計画が立てられるのか。10月までに素案をつくることができるのか。

会長： ニーズ調査の進捗も含めて説明願う。

事務局： 今年の1月に実施したアンケート調査結果から、ある程度傾向的なものは見えている。これからアンケート結果について考察をするが、保護者行動、子どもたちの考え方は変遷しているので、その辺りアンケート結果を見ながら進めたい。

無償化の影響については意識しなければならないと考えている。このアンケートでは、無償化されたら利用したいサービスについて尋ねる項目もある。今後5年間、どのように変遷していくのかを予測しながら計画を立てる必要がある。保護者の動向を考えながらアンケート調査をした。調査結果については、この後説明する。

委員： 今、出ている数字からさらに読み込まなければならないと思うが、どの程度読み込むかが重要だ。

会長： 5年前も今回同様アンケート調査を実施し、予測したと思う。ただ、実際には予測通りにならないので、数字の変化を見ながら少しづつ修正している。今回も傾向を見ながら修正することになると考えている。

委員： 大阪市や守口市などすでに無償化を始めた他の市のデータを参考にしてはどうか。

事務局： 無償化を実施している市では、予想以上に大きな動きになり、保育士や施設が足りない状況になっていると聞いている。他の市のデータを参考にしながら考えたい。

②小委員会の設置について

○事務局から、資料③に基づき小委員会の設置について説明。

会長： 事務局からの説明の通り、子ども審議会条例には臨時委員、小委員会の規定がある。今回の諮問事項に関して、計画策定に関する個別具体的な議論は小委員会で行い、その経過に沿って全体会を開催し、さらに議論するというかたちで進めたい。

条例に従い、会長が小委員会の委員を指名する。小委員会には当審議会から大西委員、加藤委員、鴨田委員、神原委員、薄田委員、波多野委員、濱田委員、平尾委員、松島委員、山田委員、私の11名、それから臨時委員の松尾委員、中村委員の2名を加えた合計13名にお願いしたいと考えている。なお小委員会の委員長は審議会の副会長である濱田委員にお願いしたい。以上のように小委員会を構成し、審議を進めていくということでおよしいか。

委員： (異議なし)

会長： ありがとうございます。

議題

(2) 子どもの成長と子育て支援に関するアンケート調査結果について（概要）

○事務局から資料⑥、資料⑦に基づき、子どもの成長と子育て支援に関するアンケート調査結果について説明。

会長： アンケート調査結果については小委員会で検討する予定だが、審議会の委員にもご意見をいただきたい。

委員： 5ページの、待機児童数について、平成27年度、28年度に大きく減っているが、

どのような対策をしたのか。

事務局： 平成27年度に定員120名の認可保育所を3カ所、合計360名分を整備した影響が大きい。ただ、入所を希望していたものの入所できなかつた方が200名ほどおられたので、さらに整備が必要だったとは思う。一度に3カ所360名分を整備したため統計上待機児童は7名と激減した。その後、待機児童が増加に転じた要因の一つとして、整備ペースがダウンしたためではないかと考えている。

会長： 入所できなかつた200名というのは、正式に入所申請があつた人か。

事務局： 待機児童数は、入所申請したが入所できなかつた方である。就労予定の方は統計から外し、入所できるが本人の都合でキャンセルした人についても待機児童には含めていない。また、空き定員をマイナスして待機児童数を出している。

委員： アンケートの有効回収率が50%であるということ、また、地域によって回収率にばらつきがある点が気になる。13ページの②居住地区の表を見ると、小学校1年生～3年生で、一番高いところは12.8%、一番低いところは0.2%となっている。地域による回収率の差をどのようにとらえたらいいのか。

事務局： 地域が片寄らないように市内を7ブロックに分けて無作為に抽出してアンケートを発送した。ただ、小学校区でみると若干ばらつきが生じる結果になってしまった。

会長： 13ページの表の数字は回収率ではないのではないか。

事務局： 回収率ではなく、構成比である。

会長： この数字を全部足したら100%になるのではないか。

事務局： 構成比であるため、全部足すと100%になるはずである。

副会長： 回収率というのは、配付した数に対して返送された割合である。13ページの数字は返送されたものを地区ごとに分けたパーセンテージになる。

会長： 子どもの数が多い地域は、全体に占める割合も多いと考えられる。宝塚第一小学校区は子どもの数が多いためパーセンテージが高くなっていると思われる。

委員： 小学生、中学生は学校で配付されたのか。

事務局： 公立の小中学校は各学校で配付、回収していただいた。私立については学校にアンケート用紙をお持ちし、学校で配付、回収してもらっている。回収率は約97%である。

事務局： 市内まんべんなく市民の意見を集約しようとした結果、人口比率が比較的高いところは高い数字が出たと理解いただきたい。総じてみて、このアンケート結果は有効と考えている。サービス量やサービスの考え方については、地域間格差を設けるのではなく、オール市としてのニーズが読み取れる中身になっていると考えている。この地域にはこれが足りないということをデフォルメするためのデータではない。小学校1年生～3年生の今回のアンケートを見ると宝塚第一小学校区、宝塚小学校区、山手台小学校区は比較的高く出ているが、この地域は子どもたちも多い。子どもたちの分布が多い所にサービスを集中させようと考えているわけではない。おしなべてアンケート結果が集約できたという確認程度で理解していただきたい。このアンケートから、子どもたちの分布状況を読み取ることができると認識している。

会長： 今年度は計画策定期となる。計画策定期に向けてさまざまな事項を皆さんに検討していただくことになる。小委員会は回数が多く、お忙しい中恐縮ではあるが、小委員会の皆さんにはよろしくお願ひしたい。

これをもって全体会は終了し、引き続き小委員会を開催する。

7 その他

○事務局より事務連絡

閉会（子ども未来部長謝辞）

会議名	令和元年度（2019年度） 第1回宝塚市子ども審議会小委員会					
日時	令和元年（2019年）5月17日（金） 午後6時00分～7時00分	場所	宝塚市役所 特別会議室			
出席者	委員	伊藤篤、大西登司恵、鴨田朋子、神原麻乃、波多野靖明、濱田格子、平尾聰、松島京、山田慎治、松尾陽子（敬称略）				
	事務局	子ども未来部長、子ども家庭室長、子ども育成室長、子ども政策課長、同係長、同係員				
	拡大事務局	子育て支援課長、同係長（家庭児童相談担当）、子ども家庭支援センター所長、子ども発達支援センター所長、保育企画課長、同副課長、保育事業課長、青少年課長、人権男女共同参画課長、保健施策推進担当課長、幼児教育センターナ次長、教育支援課副課長				
会議の公開・非公開		公開	傍聴者 なし			
内 容（概要）						
1 開会						
2 委員長あいさつ						
<p>会議の成立及び公開について 委員13名中10名出席 宝塚市子ども審議会条例第6条第2項の規定により、委員の過半数以上の出席があったため会議は成立している。 また、本日の会議は公開とする。傍聴者はなし。</p>						
3 委員長代理の選出（伊藤委員）						
4 議題						
<p>(1) 子どもの成長と子育て支援に関するアンケート調査結果報告書について ○事務局から、資料⑦に基づき子どもの成長と子育て支援に関するアンケート調査結果報告書について説明。</p> <p>委員長： 小委員会は本日を含めて5回開催する予定である。今日はアンケートの分析を行うのか、もしくは全体像を見るだけなのか事務局から説明いただきたい。</p> <p>事務局： 詳細分析、考察についてはこれから行う。今日お示しするのは単純集計なので、こういう部分を深く分析したいのでクロス集計ができないかといった提案をいただきたい。</p> <p>委員長： 今日は単純集計から分かることについてご報告いただいた。これから残り4回の小委員会でクロス集計の結果や詳細分析について事務局から説明いただく。今の時点で聞いておきたい、次回までに調べてほしいことについて、ご意見・ご質問等はあるか。</p> <p>委員： （意見・質問なし）</p>						
<p>(2) 切れ目のない支援について ○事務局から、資料①に基づき切れ目のない支援について説明。</p> <p>委員長： 宝塚市のプランには「切れ目のない」という言葉が先行して使われている。伊藤委員から「切れ目のない」という言葉について説明いただきたい。</p> <p>委員： ある年齢まで受けられていた支援がある年齢に達すると受けられなくなるのが「切れ目のある」状態である。複合的な困難さを抱えている場合、年齢が上がるにつれて複数の支援が必要になる場合がある。それにもかかわらず1つの支援しか受けられない状態</p>						

を横の面で切れ目があるという言い方をする。時間的な切れ目と各家庭が抱える複合的な切れ目の両方をカバーしなければならない。多くの場合、年齢や時間という縦の面で切れ目がないように配慮されているが、それと同時に横の面も考えることが必要である。

委員長：切れ目のない支援が後期計画の重要なポイントになる。年齢的な切れ目なく、障碍児だからここだけ、ひとり親だからここだけというのではなく、人として重なりあった暮らしがあるということを念頭に置いて支援計画や拠点を考えようという方向性である。

現時点でもう少し詳しく聞きたい、次までに聞いておきたいことがあればご発言いただきたい。

委 員：（意見・質問なし）

委員長：子ども家庭総合支援拠点になる場所の整備計画について教えてほしい。

事務局：施設面については、現在のところまったくの白紙状態である。昨年度、拠点となる機能が必要だということになった。健康センターや本庁、発達支援センターなど各部門に分かれて行っている仕事がある中で、拠点となる機能にどこまで持ってくるのか。また、それにあわせて施設整備も進めるのか、それとも今ある施設の中で拡大して対応するのか、そういうことも今後、各部門間で共有し検討していきたいと考えている。

委員長：子ども審議会の中でワンストップという言葉が出てきたが、それが「切れ目のない」ということのイメージとしてはっきりすると思う。それが建物などのハード面のことなのか、サービス面でのワンストップなのかは宝塚市民の方々の実態に合わせて考える必要がある。

切れ目のない支援について、ご質問・ご意見等はあるか。

委 員：（意見・質問なし）

（3）関係団体ヒアリングについて説明

○事務局から、資料②-1、②-2、②-3に基づき関係団体ヒアリングについて説明。

委員長：後期計画には1月に実施したアンケート調査、追加項目である子どもの貧困対策や切れ目のない支援について当事者や当事者に近い位置にいる方に直接聞いた意見を加えて後期計画を皆さんと共に作っていきたい。

関係団体ヒアリングに関してご質問・ご意見等はあるか。

委 員：（意見・質問なし）

委員長：スクールソーシャルワーカーは市内全体で7名なのか。もしくは何人かのうちの7名なのか。スクールソーシャルワーカーはどこにいるのか教えてほしい。

事務局：宝塚市全体で7名と聞いている。

事務局：7名の方それぞれが拠点となる学校を中心に、担当する小中学校に出向いて相談に応じている。

委員長：スクールソーシャルワーカーは全部の小中学校に配置されているわけではなく、拠点校を中心に、担当校に出向いて個別相談に応じたりコーディネートしたりしているということか。

事務局：その通りである。

委員長：スクールソーシャルワーカーの所属はどこになるか。

事務局：教育委員会の学校教育課の所属である。

5 その他

○事務局より事務連絡

閉会（委員長謝辞）

